

遺伝子教育研究センター

Research and Education Center for Genetic Information

最先端を支える3施設

学内共同教育研究施設として放射線実験施設、動物飼育実験施設、植物温室などの管理運営を行っています。放射線実験施設は全学のアイソトープの安全管理と利用者への教育実習を行っています。

動物飼育実験施設では、小動物の飼育管理や利用者講習会を行うと共に遺伝子改変マウスの作製も行っており、動物個体レベルでの研究のサポートをしています。植物温室は、開放系と閉鎖系の温室をもち、研究に必要な植物個体の栽培とトランスジェニック植物の栽培などを行っています。

これらの各施設は最先端のバイオサイエンス研究を進めるために必須なもので、専門の技術職員が配置され施設の円滑な運営に努めています。



●放射線実験施設

放射性同位元素はその使用が法律で厳しく規制されています。しかし、バイオサイエンスや材料化学の研究で、ごく微量の分析を行うときは欠かせない物質です。そこで、本学では許可を受けた核種と量を、安全性の基準を満たした施設の中で使用しています。



●植物温室

植物温室には、トランスジェニック植物を栽培するための閉鎖系のスペースと実験材料に用いるためのトランスジェニックでない植物を栽培するための開放系のスペースがあります。閉鎖系スペースは温度を空調によりコントロールしています。



●動物飼育実験施設

動物飼育実験施設では、SPFレベル(特定微生物に感染していない)のマウス、ラット、モルモット、ウサギを飼育しています。飼育室のほかに、手術室、遺伝子改変マウスを作製するためのインジェクション室なども整備されており、樹立した遺伝子改変マウスの受精卵や精子を用いた凍結保存なども行っています。

